

2021 年 3 月 31 日



養老溪谷観光まちづくり

～松下政経塾生による 20 の提言～

公益財団法人 松下幸之助記念志財団

松下政経塾 自治体経営研究会

澤田 拓人(第38期生)

須藤 博文(第39期生)

小林 祐太(第40期生)

坂田 健太(第41期生)

中田 智博(第41期生)

【目次】

1. 2020 年度自治体経営研究会メンバー紹介	P3
2. 自治体経営研究会とは	
(1) 自治体経営研究会が目指すもの	P4
(2) 2019 年度の研究	P4
(3) 養老溪谷との出会い	P6
3. 養老溪谷温泉の魅力	P7
4. 関係者ヒアリング&現地イベント	P8
5. アンケート調査	P12
6. 養老溪谷観光まちづくり「20の提言」	P14
(1) 観光調査の方向性と観光ルート（提案1～提案6）	P15
(2) モビリティの課題（提案7～提案9）	P24
(3) ニッチな層に向けて（提案10～16）	P27
(4) その他の提案（提案17～20）	P34
7. 観光調査報告会&意見交換会	P38
8. 神奈川大学国際日本学部の学生との交流会	P40
9. 結び	P41



【2020 年度自治体経営研究会 メンバー紹介】



澤田拓人（第38期生）

愛知県名古屋市出身。法政大学社会学部卒。在学中、地方消滅問題に危機感を抱き、経世済民の志を貫徹するため入塾。現在は健康長寿と子育て支援を軸に、持続可能な自治体経営の研究研修に取り組んでいる。自らの健康増進に邁進中。



須藤博文（第39期生）

千葉県市原市出身。千葉大学大学院専門法務研究科を修了後、なりた総合法律事務所にて弁護士活動を行う。依頼者とともに事件を解決していくうちに、不合理な法律や司法制度・更生支援のあり方に疑問を持つ。入塾後、再犯防止・福祉政策に注力し、活動している。



小林祐太（第40期生）

神奈川県横須賀市出身。立命館大学政策科学部卒業。在学中に故郷・横須賀が著しい転出超過に直面している現状を知る。入塾後、人口減少時代における郊外都市の在り方、少ない人口にあっても仕事や生活において一人ひとりが輝くことのできる街の実現について研究・実践している。



坂田健太（第41期生）

埼玉県さいたま市出身。青山学院大学法学部卒業後、神奈川県庁に入庁。社会構造の変化に伴い、複雑な課題が山積する地方自治体において、その組織の在り方に危機感を覚える。内部からのイノベーションを引き出す有機的かつ創造的な自治体組織の構築を目指す。



中田智博（第41期生）

神奈川県出身。早稲田大学政治経済学部卒業。大学在籍中より、欧米諸国におけるポピュリズムの勃興と社会分断の現象に疑問を持つ中で、日本の変容しつつある社会を目にする。日本におけるポピュリズムの勃興の阻止と、その奥にある社会分断を克服し、調和のある社会の在り方を探求するため入塾。

【自治体経営研究会とは】

（１）自治体研究会が目指すもの

松下政経塾の現役塾生が４学年の壁を越えて、それぞれの塾生が興味ある分野ごとにチームを組んで、研究を行っています。2020年度は、自治体経営研究会のほか、外交安全保障研究会、社会保障研究会の３つの研究会が立ち上がりました。

私たち自治体経営研究会は、超少子高齢社会を迎え、日本における自治体の多くで人口減少がはじまっている現状に危機感を覚えました。人口減少による税収減少や働き手不足が深刻化することを防ぐために、自治体をどのように経営していくべきかを考えなければなりません。さらに、自治体経営を行う主体は、首長や役所などの行政機関だけでなく、地方議員や民間企業、NPO、ひとりひとりの住民が担っているものであると考えています。本当の意味での公民連携を探っていき、地域の課題を発見し、地域の方々とともに解決していけるように、研究・研修を行っていくことを目的として活動しています。

（２）2019年度の研究

私達自治体経営研究会は2019年度に少子高齢化に伴う人口減少社会におけるまちづくりのありかたを研究・研修いたしました。全1,718自治体の内、人口減少に対して有効な政策展開を行っている３つの先進自治体（岩手県紫波町・兵庫県明石市・静岡県熱海市）を選定し、現地調査を行いました。本節では、調査した自治体での研究報告をそれぞれ行います。



岩手県紫波町は盛岡市南部に位置し人口約33,090人（2020年3月）、面積238.98km²の自治体です。盛岡市に隣接していることからベッドタウンとしての機能に注目し、県内移住を推進するまちづくりを長年行っております。そのような自治体は全国に多くありますが、紫波町に私たちが注目した点は、官民連携によるJR紫波中央駅前都市整備事業「オガールプロジェクト」です。

もともと紫波町はJR紫波中央駅前に10.7haの町有地を保有しており、町民および民間企業とこの町有地の活用を図り、平成21年に紫波町公民連携基本計画を議会で議決しました。このような経緯で始動したオガールプロジェクトは、当初より民間企業が施設運営を行うことを念頭に開発され、「農村と都市」という紫波町にすむ住民のニーズを把握し、事業採算性に特化しており、財政面においても住民ニーズにとっても望ましいまちづくり事例でありました。このように、民間企業を主体とした自治体保有地の再開発は、紫波町の事例から財政面に限らず、地域振興・文化推進・防災等あらゆる面で可能性を感じられるものです。

最後に静岡県熱海市の調査報告をいたします。人口 36,003 人（2020 年 11 月）、面積は 61.78 km²の温泉観光地として知られる自治体です。熱海市は温泉が観光資源として活用され、団体向けの大きな温泉旅館が産業の中心でした。しかし、バブル崩壊後、宿泊者は減少の一途をたどっており、2011 年のリーマンショックによって深刻な観光客数の減少に見舞われました。特に 2011 年には前年比 15%の 40 万人減に落ち込みましたが、2015 年には奇跡の約 70 万人増の V 字回復を成し遂げました。この成果のトリガーは熱海市の「財政危機宣言」がきっかけであると街づくり会社 machimori 代表取締役市来広一郎氏は指摘しておりました。この「在英危機宣言」をきっかけに、市民活動や NPO 等の活動が活発になり、補助金に頼らない民間主導のまちづくりが始まりました。ターゲット層として「クリエイティブな 30 代に選ばれるサードプレイス」を目指しました。一方で市も民間主導によるリノベーションまちづくりを推進するために ATAMI2030 会議を主宰し、民間の活動を横軸で繋ぐ機能を果たしました。その結果、「A-PLUS」という熱海土産のブランドを官民連携で立ち上げ、観光客向けに地元商品の PR をはじめ、JTB「意外と熱海プロジェクト」等首都圏の若い女性をターゲットに観光客数の復活も果たしました。



竹部隆熱海市議会議員

（３）養老溪谷との出会い

上述 3 自治体での調査から得た知見をもとに、幹事である須藤塾生の故郷千葉県市原市を訪問しました。そこで、これら人口減少時代の自治体経営について応用実践の可能性について検討した結果、市原市の中で最も少子高齢化問題が顕在化している市原市南部の養老溪谷に着目しました。



山の駅「喜楽里」
鳥居浩氏と



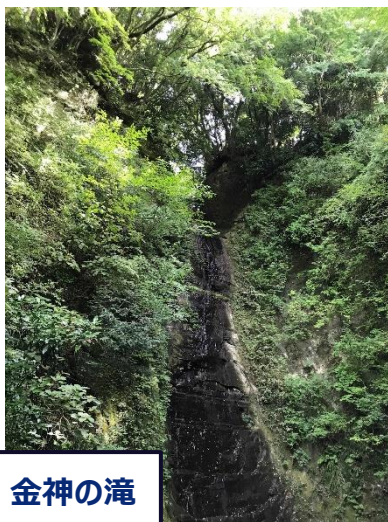
養老溪谷温泉「喜代元」にて、
高橋洋介さんを囲んで

養老溪谷は市原市と大多喜町にまたがる温泉と溪流を資源とした観光地です。しかし、熱海同様バブル崩壊後団体向けの観光が停滞したため、産業衰退と人口減少が深刻化していました。そのような養老溪谷で再開発に挑戦する元市原市地域おこし協力隊員の高橋洋介さんの活動を通じて、養老溪谷こそ人口減少時代の最先端現場であると認識し、養老溪谷におけるまちづくりに 2020 年度の活動方針といたしました。

そして、まとまった活動期間が取れる研究会活動期間（10 月下旬～11 月上旬）の前に、養老溪谷を数回訪問して、その魅力を調べるとともに、関係者へのヒアリングを重ねて養老溪谷の再興のために何が必要なのかを調査しました。

【養老溪谷温泉の魅力】

養老溪谷とって、いちばんに思い浮かべるのは、「栗又の滝」ではないでしょうか。



金神の滝

栗又の滝に沿って整備された滝めぐり遊歩道には家族連れやカップルなど観光客があふれています。

栗又の滝以外にも、小沢又の滝や金神の滝などがあります。中でも金神の滝はまさに知る人ぞ知る穴場の滝であり、360℃岩場に囲まれ、外界と遮断された神秘的な雰囲気醸し出しています。

養老溪谷としてもうひとつ有名なモノは「紅葉」でしょう。関東で最も遅く到来するという養老溪谷の紅葉のピークは例年11月下旬から12月初旬となります。

2019年は台風15号被災の影響、2020年はコロナ禍ということで、大規模な紅葉ツアーは行われませんでした。With コロナ、After コロナに向けて自然たっぷりの養老溪谷は観光地としてうってつけだと思います。

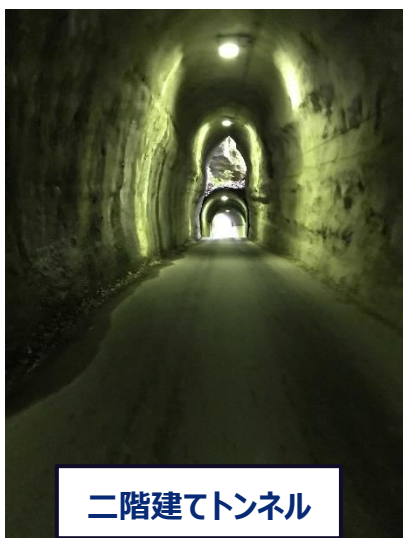


栗又の滝

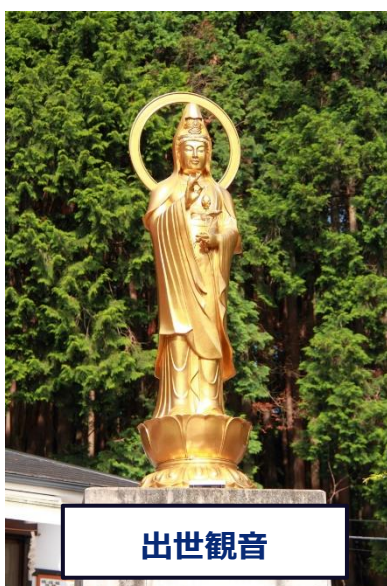


養老溪谷の紅葉

そのほか、SNS投稿や新聞に取り上げられて話題となった二階建てトンネルや、縁起がよいとしてパワースポットとして出世観音が有名であり、出世観音に向かう観音橋もライトアップが話題となっています。



二階建てトンネル



出世観音



観音橋

【関係者ヒアリング&現地イベント】

今回、自治体経営研究会は、養老溪谷はじめ、大多喜町や市原市に關係する多くの方々にヒアリングをさせていただきました。



大多喜町長である飯島勝美氏からは、民間企業出身ゆえに、民間の力を活用しようとする町長のお話に、自治体経営の要諦を見せていただきました。また令和元年度の台風被害やコロナ禍の影響など大多喜町が抱えている課題についても詳細にお話を伺うことが出来ました。観光面においても、過去に開催されていた養老溪谷花火大会のお話、大多喜城と養老溪谷という大多喜町の二大コンテンツをどう生かしていくか意見交換をさせていただきました。

松下政経塾の第9期生でもある千葉第3区（市原市、千葉市緑区）選出の衆議院議員の松野博一先輩にヒアリングをさせていただきました。市原市は人口の9割がJR3駅（八幡宿、五井、姉ヶ崎）に集中しており、中央部・南部の過疎化が進んでいること、特に南部においては、農業における鳥獣被害が深刻であることなどをご教示いただきました。特にイノシシなどは、ボタン鍋などイノシシ肉として食用出来る部分がわずかで、その他の部分は産業廃棄物になってしまうなど詳細にわたる問題についても伺うことが出来ました。我々の寮室にもある「大忍」という塾主の言葉の前でヒアリングをさせていただきました。



市原市役所
ヒアリング



市原市役所観光振興課、市原市観光協会の方々にヒアリングさせていただきました。養老溪谷の観光の現状をお伺いするとともに、養老溪谷観光協会や養老溪谷旅館組合など自治体を越えた取り組みについても教えていただきました。



古竹孝一
いすみ鉄道株式会社社長



大多喜町に本拠地を置くいすみ鉄道株式会社社長の古竹孝一氏にお話を伺うことが出来ました。いすみ鉄道は沿線自治体や民間企業が出資する第3セクターであり、地

域と深く結びついていました。中でも話題になっている古本寄附事業「い鉄ボックス」の仕組みもお話いただきました。

千葉県市原市の五井駅前にある小湊鐵道株式会社の本社に伺い、石川晋平社長にヒアリングをさせていただきました。交通業界に押し寄せるコロナの影響を伺うとともに、養老溪谷温泉やいすみ鉄道との連携などについても話は及びました。すでに1日フリー切符はあるものの、養老溪谷温泉に宿泊する方のために2日フリー切符があると気軽に途中下車をすることができて嬉しいという感想・要望もお伝えしました。さらに、小湊鐵道利用者の利用目的が①いすみ鉄道と小湊鐵道を利用した房総半島横断、②トロック列車に乗ること自体を目的、③チバニアン、高滝湖、養老溪谷などの観光目的に分けられることも教えていただきました。



石川晋平
小湊鐵道株式会社社長



養老溪谷温泉観光協会の会長でもある喜代元旅館の秋葉保雄社長からは養老溪谷温泉街全体の後継者不足や廃墟の問題など課題を伺うだけでなく、多くの魅力を

伝えていただけました。

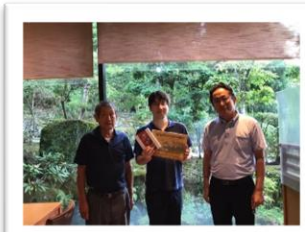
喜代元旅館の黒湯温泉は滑らかな肌触りででした。



秋葉保雄
喜代元旅館 社長

養老溪谷名物「粟又の滝」の目の前にある養老溪谷温泉街で最大の滝見苑旅館の富澤真実社長（養老溪谷旅館組合長）にヒアリングをさせていただきました。「冒険」

をテーマに親子で楽しめるような養老溪谷にすること、台風被害・コロナなどの災害等にも柔軟に対応していく様子をうかがうことが出来ました。滝見苑でいただく料理は、地元で採れた食材をふんだんに使っており、イノシシ鍋も大変美味しかったです。



富澤真実
滝見苑旅館 社長

また別日には、滝見苑の創設者である富澤清行会長からは、金神の滝を開拓した様子や、絵本製作、有機農業をはじめ地域おこしを行っている様子もお聞きすることが出来ました。



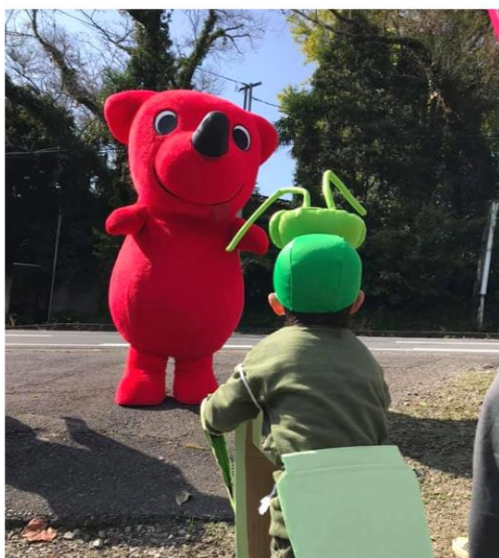
平林昇
平林物産株式会社社長

大多喜町で最大規模の会社である平林物産株式会社の平林昇社長にお話を伺いました。大多喜町は、アクアラインなどの交通インフラ拡充により、東京や神奈川とも流通がスムーズになってきていることを生かし、地元のモノ（たけのこ、イノシシ肉、自然薯など）をどんどん外に広げてアピールして、顧客層を広げていくべきとのお話をいただきました。

また、市原市地域おこし協力隊の掘エミイさん、白石伸幸さんのご案内のもと地域の皆さんと共に紅葉シーズンに賑わいを見せる市原市の大福山を散策させていただき、この地域の資源を再認識した。一方でその山の裏では大規模な産業廃棄物処理工場があり、水力発電の影響で滝の水量が減少してしまっているなどの課題も知ることとなりました。

**地域おこし協力隊、地元住民の皆さんと
大福山散策**





市原交流会主催の
養老溪谷ハロウィンイベント

2020年10月31日、養老溪谷において、市原交流会が主催するハロウィンイベントに参加させていただきました。

仮装大会には可愛いカマキリ兄弟や、千葉県の公式ゆるキャラであるチーバくんや、チバニアンの非公式キャラクターであるちばにゃんが来てくれました。お菓子や豚汁を配りながら、養老溪谷のマップで観光案内もしました。



来年度は市原だけでなく、大多喜町との合同イベントで行うことを提案し、大多喜町の皆さんと市原交流会の方々をお繋ぎすることも出来ました。

養老溪谷の山間部高台にある大多喜町旧老川小学校は、生徒数減少のため2013年に閉校した後、地域活動等に利用されてきました。良品計画は2017年5月より旧老川小学校を拠点に、地域の課題をそこで暮らす方々と共有したり、地域を超えて人と人とがつながる場を創出することで課題解決を目指す取組みを行っています。今回は報告会に講堂を、学生とのオンライン講義にはワーキングスペースを貸していただくことになりました。



旧老川小学校

政治の現場の方、経営者、地元で事業をされている方など幅広い分野の視点から地域の課題、可能性について教えていただき、観光のための地図すらない時代、実際に歩いて徒歩での所要時間を計算した過去や露天風呂を営業するためのコスト(内風呂よりもボイラーを回し続けなければならない)、またコロナ渦におけるGo to Travel事業での忙殺やお年寄りの経営者のクーポン券対応の難しさなど、地元の声を鮮明に伺うことができました。

自治体を経営していく上では、自治体を訪れる方だけでなく事業者の方、さらに地元の方にも幸せになってもらう政策を立てなければなりません。後述する観光客の皆様へのアンケートと合わせて、三者にプラスになる策を考える2週間でした。「地域を良くしたい」という想いは共通している中、各々が違うベクトルで動いているだけでは大きなうねりにはなっていきにくく感じました。同じ熱い想いを持った人々の動きをつなげ、うまく噛み合わせて大きなうねりを起こし、地域の活性化に繋げていくことが極めて重要であると改めて感じ、養老溪谷についてだけでなく自治体経営を志す塾生それぞれの今後の活動についても大きな示唆をいただくことができました。

【アンケート調査】

本活動においては、主に観光面でのニーズや観光客の動態を知るため、養老溪谷来訪者を対象にアンケート調査を行った。本節においては、アンケート調査の概要について述べます。

調査の概要は以下のとおりです。

実施期間：2020年10月28日～同年11月4日

対 象：養老溪谷来訪者

調査方法：旅館に設置，観光名所に調査員（塾生）

回答総数：545件

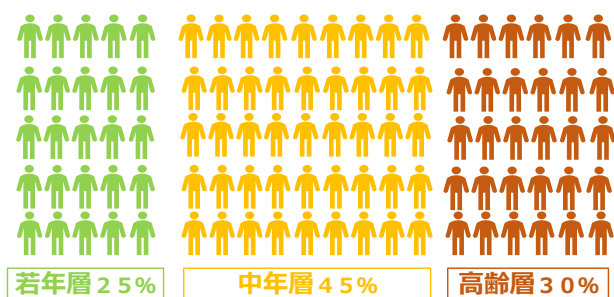
養老溪谷に所在する旅館の多くに協力いただき、また、喜楽里を主に養老溪谷の観光スポットで養老溪谷来訪者の多くに調査を行いました。

また、設問については、以下の項目を実施しました。

性別，年代，所在，養老溪谷来訪回数、日帰 or 宿泊，交通手段、養老溪谷に欲しいもの（自由記述）。

調査結果の概要について紹介します。

回答者の男女比については、52対48でほぼ同数であった。また、年代についてみると、若年層（30代以下）と中年層（40—50代）、高齢層（60代以上）がそれぞれ25%、45%、30%で中高年が中心であった。また、回答者の日帰りと宿泊の割合は79%と21%という結果となりました。

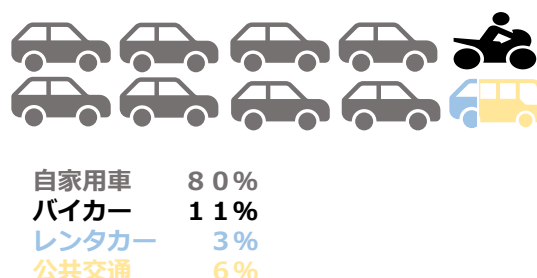
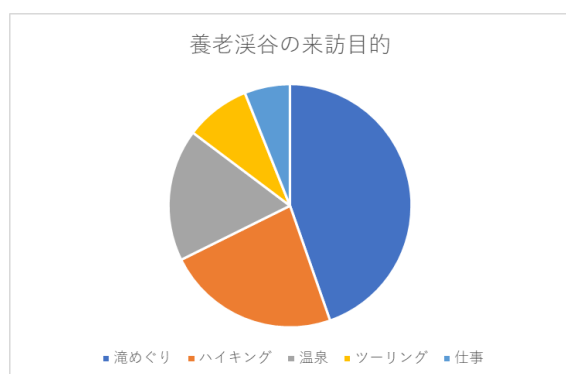


回答者のリピート率は57%という高い数字となり、全国平均37.2%（じゃらんリピーター追跡調査）を大きく超えました。そのうち1回目43%、2回目16%、3回目以上20%、数えきれないほど無数に訪ねているのが21%という内訳でした。

来訪者の所在について、千葉県内が63%に対し、県外が32%であり、来訪者のうち首都三都県からの来訪が89%でありました。これについてはコロナ禍ということも影響している可能性は否定できません。

来訪の目的は複数回答で、滝めぐり（221名）、ハイキング（114名）、温泉（87名）、ツーリング（43名）、仕事（30名）の順となった。

交通手段については、自家用車80%、バイク11%、レンタカー3%、公共交通6%という結果となった。



なお、本調査のアンケート用紙、結果については下記 URL より参照可能である。

（アンケート用紙：GOOGLE FORM）



https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScFZnKc3_M5Xy9-Ke0UZ0rl2A1wOitDJTKYSIQftD5brRxuVg/viewform?usp=sf_link

（アンケート結果：SPREAD SHEET）



<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1jaEO9dNY7ied4r9TmuMTdaNLFbZsFLNyb27kKBTpO44/edit?usp=sharing>

【養老溪谷観光まちづくり「20の提言」】

★観光誘致の方向性と観光ルート

1、Re-Visit

2、養老溪谷観光協会ホームページ

3、デジタルサイネージによる広報

4、観光ボランティアの充実

5、隣接観光地での広報

6、旅館フローチャート

★モビリティの課題

7、駐車場共通バス

8、宿泊・交通こみこみプラン

9、Mobility As A Service

★ニッチな層に向けて

10、ライダー特典

11、ドライブテクニック講座

12、ライダー休憩スペース、エナジードリンク

13、飛び出そう！旅館の美味しいランチ

14、ペットにやさしい観光

15、バリアフリーなやさしい観光

16、赤ちゃんにやさしい観光

★その他の提案

17、廃墟旅館×アート

18、大多喜町でマンホールカード導入を

19、きれいなトイレ

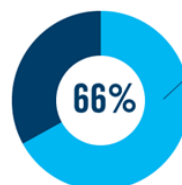
20、フリーマーケット（柿売り実証実験）

【1 Re-Visit】

1. アンケート結果からみるリピート状況

① 養老溪谷におけるリピーターの現況

○県内からの観光客 336 名（大多喜町を除く）のうち、
222 名がリピーター（2 回目以上の来訪）。



県内からの観光客
のうちリピーター
の割合

○県外からの観光客 173 名のうち、58 名がリピーター
（2 回目以上の来訪）。



県外からの観光客
のうちリピーター
の割合

○関東ブロックからの観光客 491 名（大多喜町を除く）
のうち、276 名がリピーター（2 回目以上の来訪）。



関東からの観光客
のうちリピーター
の割合

② 全国的なリピーターの傾向（じゃらん・2012 年）

全体	旅行者の居住地（発地）の距離圏		
	同ブロック 居住者	隣接ブロック 居住者	遠距離ブロック 居住者
37.2	47.2	37.0	31.4

養老溪谷と全国のリピータ状況を比較すると、リピータ率の全国平均は 37.2%であることに対し、養老溪谷におけるリピータ率は 55.0%と全国平均を大きく上回っています。その要因となっているのが県内観光客のリピータ率（66%）の高さです。それゆえ、同ブロック観光客のリピータ率も全国平均を大きく上回っているものの（56.2%対 47.2%）、関東近県からの観光客のリピータ率に絞ると 34.8%と全国平均を下回ります。東京 23 区や横浜から 2 時間で 着くアクセスの良さを鑑みれば、この点は改善の余地があるのではないのでしょうか。

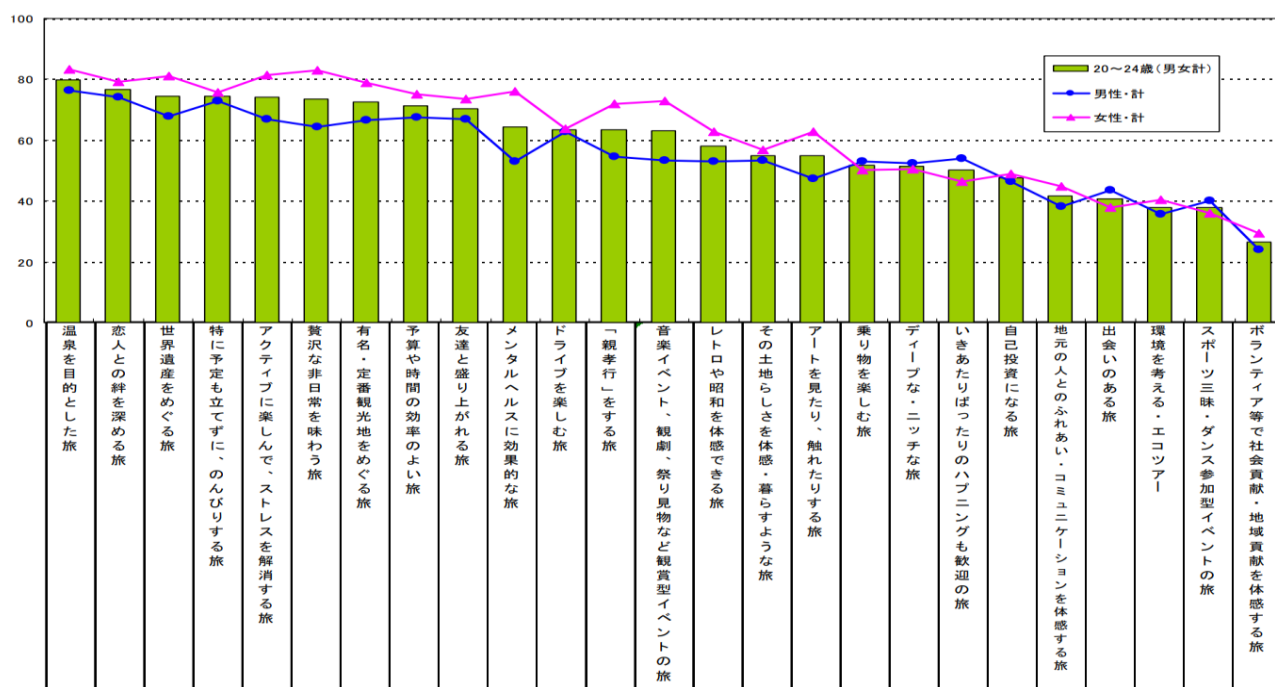
また、じゃらんリピーター追跡調査レポート（2012 年）によると、リピーターになる可能性が最も高い観光客は、初回来訪年齢が 18 歳～24 歳であるとされています。養老溪谷における 10 代・20 代の来訪割合は全体の 10.7%と決して高いとは言えず、若者にどのようにアプローチするかも今後の課題となりそうです。

2. 提言内容

上記のとおり、養老渓谷における観光客のリピー率向上のためには、①関東近県からの観光客のリピー率を高める、②若者の来訪割合を高めるという2点が重要だと考えられます。

このうち①については、「養老渓谷」という名前を認知してもらうこと、加えて「都内から約2時間あれば到着する」というアクセスの良さを知ってもらう必要があります。実際にアンケートをする中で、「「養老」と聞くと岐阜の養老川を先に思い出す」や「都内からこんな近くに綺麗な紅葉が見られる場所があるなんて知らなかった」という声を多数耳にしました。最近では若年層だけでなく、高齢者層においてもインターネットで観光先を調べることが一般化していますが、例えば養老渓谷観光協会のホームページは「関東 日帰り 観光 紅葉」までキーワードを並べて検索しても、Google・Yahoo!ともに圏外の判定となつてしまっています。簡単な対策ではあるが、ホームページのdescriptionでもっと都内からのアクセスの良さを訴えても良いのではないのでしょうか。

また、②については、同じくじゃらんの「働く若者の国内旅行実態調査」の中で20～24歳の独身有識者の旅行コンセプトへの興味度が明らかになっており、1位が「温泉を目的とした旅」となっています。



アンケートをする中で意外だったのが、養老渓谷が温泉地であることを知らない観光客が思いのほか多かったことです。養老渓谷は「黒湯」という珍しい湯も出ることから、温泉街として人気となるポテンシャルも高いと考えます。紅葉や滝のみならず、温泉街としてのブランディングを養老渓谷全体でかけることができれば、自ずと若者の来訪割合を高めることにつながるでしょう。

《 アンケートの分析からみる、利用者の最も大きな要望》

アンケートの最終項目「養老溪谷でお過ごしになって、どのようなものがさらにあったらいいと思いますか？」という自由記述の問いかけに対して、最も多い回答が以下のものでした。

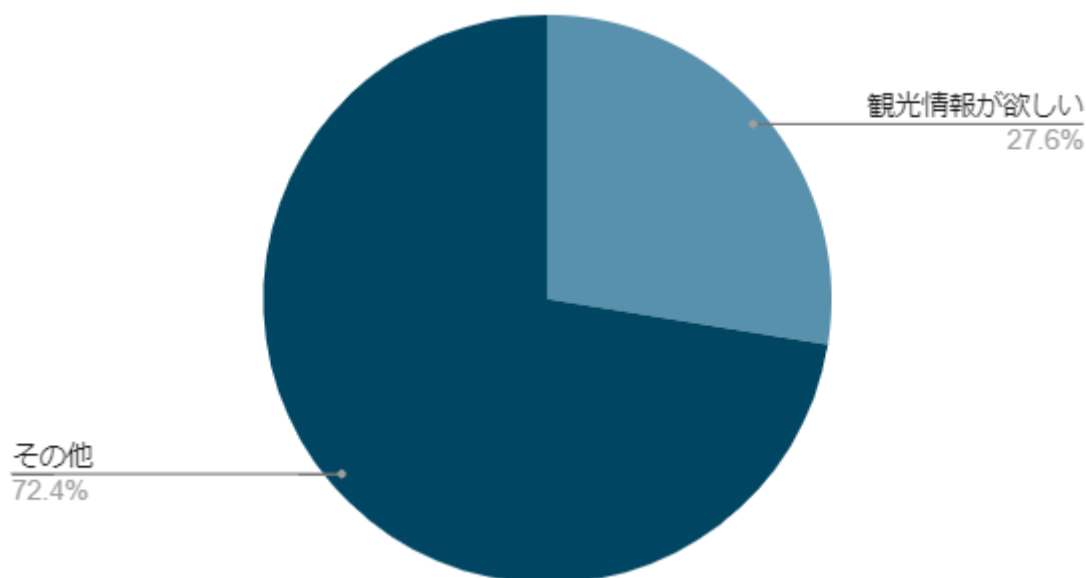
○「養老溪谷に来てみたけれど、楽しみ方がわからない」

○「観光名所巡りを目的に自家用車で来ましたが、駐車場はどこなのか、観光名所間の距離歩けるのか、詳しい情報が欲しい」

○「養老溪谷の観光案内を知りたい」

このような観光情報の充実化に対する要望が 124/550 と最も大きかったことが判明しました。

[アンケートの調査結果]



「観光情報の充実化」することで、養老溪谷での観光満足度を更に高め、より多くの観光客の方にお越しいただくことができると私たちは分析しました。そこで、観光客の方々に喜んでいただけるような「観光情報の充実化」にかかる提言を以下 3 点示したいと思います。

【2 養老溪谷観光案内マップの発信強化】

◎提言内容

以上のことから分かる通り、養老溪谷に観光で訪れた多くの方が、養老溪谷の観光名所が自動車を利用しなければ巡れない程に点在していることを把握せずに来てしまい、右往左往している姿がありました。同時にスマートフォンで観光地の場所までは把握していますが、個別の観光地情報しか把握できていませんでした。その結果、観光地付近での駐車場情報や、養老溪谷全体の観光情報をもっていないため、全体計画を立てられず、その場その場でインターネットを使い調べている姿を散見しました。

その一方で、養老溪谷観光協会様では、養老溪谷へ来られた方向けの観光案内マップを作成し、養老溪谷観光協会のホームページにあげています。観光客の方が求めている観光情報というニーズに対して、養老溪谷全体の点在した観光名所が一枚図で明記され、さらにその周辺の駐車場情報や歩行時間なども明記された、養老溪谷観光案内マップはありました。しかし、実際現場においては多くの方がそのマップ情報を取得するには至っていないのが現状でした。

私達で分析した結果、養老溪谷観光協会のホームページの待ち受け画面からマップまでのアクセスが分かりづらいことが、原因であると結論付けました。下の図1は、ホームページの待ち受け画面となっていますが、このホームページの左側「コンテンツ」の中の中⇒で示している「ダウンロード」のボタンを押すと、図2のダウンロード画面となり、更に中で⇒の養老溪谷散策マップを押すことで図3の地図情報にアクセスできるシステムになっています。よって、私達の提言としては、観光地図情報を待ち受け画面に表示することで、一目で観光情報をお求めのお客様にアクセスしやすいようにホームページを変更するべきだと考えます。



【3 デジタルサイネージによる観光情報発信】

◎提言内容

2の提案によって、スマートフォンを活用したインターネットにおける情報発信によって、多くの方のニーズに答えることができます。しかし、実際に養老溪谷にお越しになる観光客の内、約30%の方は高齢層（60代以上）であり、スマートフォンを活用されておられない方も現地で多く見受けられました。そのため、インターネットの情報にリーチが出来ない高齢層の方のニーズにお応えできません。そのため、〈観光情報の充実化〉について、スマートフォンを介さないで、高齢層の方のニーズにお応えする為に2点目の提言を行いたいと思います。

それは、デジタルサイネージによる観光情報発信です。屋外・店頭・公共空間・交通機関など、あらゆる場所で、ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するメディアを総称して「デジタルサイネージ」と呼びます。既に、身の回りには、すでに多くの場所で様々なディスプレイや表示機器が設置され、広告に限らず様々な情報が提供されています。高齢層の方も 街頭の大型ビジョンや駅や空港、ショッピングモールはもちろん、エレベーターや小型店舗、大学、ホテル、病院で見たことのある方は多いはずです。

このデジタルサイネージを道の駅等の観光拠点に設置活用して、上述の養老溪谷観光協会のホームページ上にアクセスできるようにします。その結果、高齢層の方でも情報にアクセスできる。また、デジタルサイネージの費用に対しては、シャープ製43型の商品で66,500円(税込)程度の予算で設置可能です。

むろん、保守点検等は別途必要となり、屋内に設置するか、屋外に設置するか、メーカー等によって費用は上下する可能性はあります。



デジタルサイネージ イメージ図



シャープ製43型
デジタルサイネージ

【4 観光ボランティアの充実】

◎提言内容

観光情報に対する最後の提言は、観光ボランティアの充実です。なぜならば、この提言のニーズはリピート層に向けたものであるからです。既にアンケート調査結果から分かったことですが、回答者のリピート率は57%という高い数字となり、全国平均37.2%（じゃらんリピーター追跡調査）を大きく超えました。そのうち1回目43%、2回目16%、3回目以上20%、数えきれないほど無数に訪ねているという方が21%という内訳でした。よって、地域観光案内&ネイチャーガイドを地元の方に有償ボランティアとして活躍してもらうことで、リピート層に向けて観光満足の充実化を図ることが重要だと考えます。具体的には有償ボランティアの方には、曜日と時間帯を決めてボランティアに参加してもらい、ネイチャーガイドに関しては、利用者に料金を払ってもらうことで対応が可能です。実際、ネイチャーガイドを求めるアンケート結果もリピート層においては若干見受けられました。更に私たちが参加した地域おこし協力隊員主催のネイチャーガイドが地元住民向けに行われており、将来的には観光客の方のニーズにこたえられるコンテンツとなる可能性を感じられます。



アンケート調査中に、何度も
養老溪谷の観光案内を求められました



地元住民向けの
ネイチャーガイドの様子

【5 隣接観光地での広報】

1. アンケートで出た意見

アンケートにお答えいただく中で、きわめて多くの人がおっしゃっていたのが「なんとなく来た」「通り道で降りたが、何したらよいのかわからない」というお声でした。内陸という立地であるため、「なんとなく来てもらえる」「休憩に使ってもらえる」ということはそれだけ街に興味を持ってもらえる可能性が上がるため、大きな武器であると考えます。

しかし、その広報がうまくいっていなければせっかく立ち寄ってもらってもすぐ他の観光名所などへ行ってしまう、次に立ち寄ってもらえない可能性も高いと考えます。



2. 提言内容

そこで我々が考えたのが隣接観光地での広報です。養老溪谷の周りには東京湾アクアラインの海ほたるや東京ドイツ村、マザー牧場、木更津アウトレット、鴨川シーワールドなど多くの観光施設があります。そして、養老溪谷は地理的に千葉県中心部にあるため、これら施設の行きもしくは帰りに立ち寄ってもらえる可能性が高いのです。

こういった施設のデジタルサイネージなどを活用して粟又の滝や紅葉、日帰り温泉の映像を流すなど魅力に気づいてもらい、さらに「ついでにすぐいけるな」と思ってもらえれば訪れる方も増えるのではないかと考えます。養老溪谷のことを養老溪谷で宣伝するだけではなく、その入口に当たる場所で広報することでより「ついで需要」を掘り起こすことができるのではないのでしょうか。



海ほたるパーキングエリア



鴨川シーワールド

【6 旅館フローチャート】

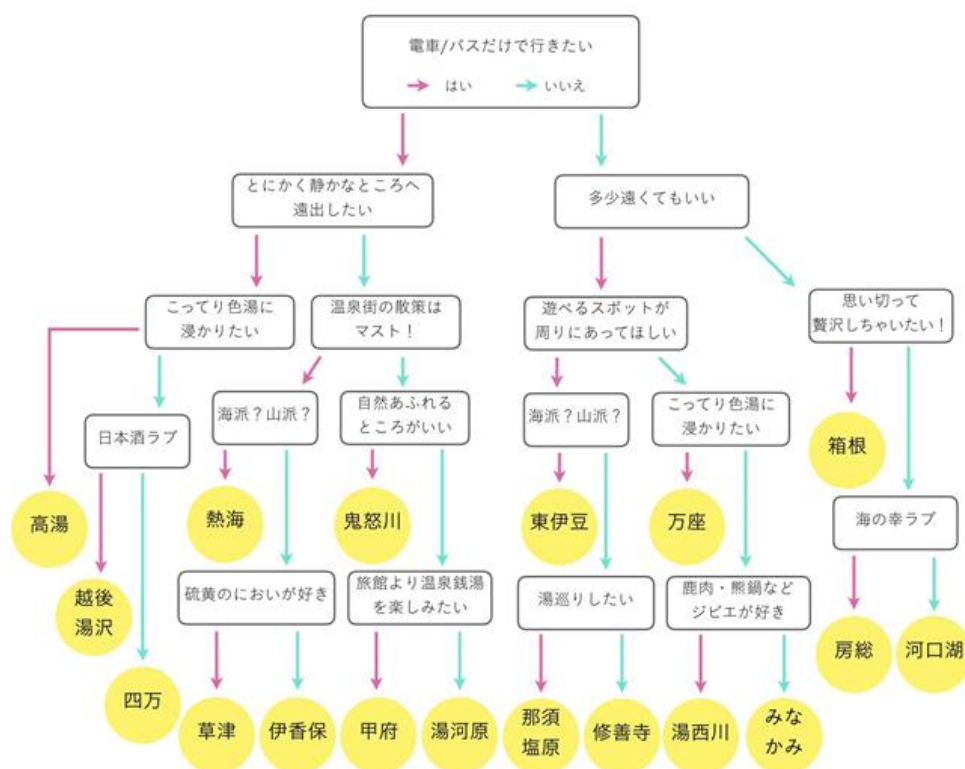
1. アンケートで出た意見

日帰りでお越しになった方から、「どの旅館の何が売りなのかがわからない」「どこに行けばどんなご飯が食べられるのかわからない」というご意見をいただきました。

パンフレットには旅館の名前や連絡先、住所等は記載されているものの、特徴や宣伝のような部分の色はあまりなかったように見受けられました。

2. 提言内容

そこで我々は「旅館フローチャート」を提案させていただきます。このフローチャートはお客様のその時のニーズや気分に合わせて旅館を選べるというものです。



上記は東京から日帰りできる温泉地をフローチャートにしたものですが、このように「山の幸が食べたいか、イノシシ肉が食べたいか」「布団が良いか、ベッドが良いか」など各旅館の特徴をアピールしつつお客様のニーズに合ったところを選んでもらえる可能性が高くなるものです。また、食事をする場所などにも応用することが可能です。

【7 駐車場共通パス】

1. アンケート結果からみる現況

○アンケート結果によると、65 名の方が、
駐車場関係で不便を感じたと回答していました。

○養老溪谷には観光スポットがいくつかありますが、

その大きな問題点は次図のようにスポット間の距離が離れていることです。



駐車場関係で困った。

65名



○自動車で来訪している場合でも一つの有料駐車場に駐車し、その後、徒歩移動を強いられている観光客が少なくありません。そのため、無料駐車場を増やしてほしいとの声が非常に多く聞かれました。



2. 提言内容

上記のような不便を解消するために「養老溪谷駐車場共通パス」の発行を提案します。これは養老溪谷近辺いずれかの駐車場に一度チェックインすれば、他の近辺の駐車場についても追加料金なしで利用できるというサービスです。これにより、観光客は観光スポット間を効率よく回ることができ、その分の経済効果もできるでしょう。

課題としては、まず、現状駐車場収入がある程度確保されている事業者に対して、どのようなインセンティブを示すことができるか考える必要があります。例えば、粟又の滝につながる遊歩道前に位置する駐車場では、既に滝を見に行く観光客から一定の駐車場収入を得ることができているでしょうし、養老溪谷駐車場共通パスのスキームに加わることで得られるメリットを明確に示す必要があります。

また、駐車場インフラについても、自動改札機が設置されている駐車場はほとんどなく、共通パスを認識する仕組みについて検討する必要があることに加え、看板が出ていない等の基本的な問題解決にも取り組むことが求められます。

【8 宿泊・交通こみこみプラン】

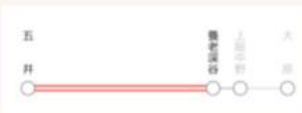
1. アンケートで出た意見

○「養老溪谷旅館に予約して、市原・大多喜の観光巡りをしたいが、鉄道・バスなどの公共交通機関の価格が高くて、旅館籠りしてしまう」

○「養老溪谷や市原・大多喜の観光名所巡りは自家用車で行わないと、交通費で多額の費用がかかってしまうので、結果として歩ける範囲での散策で観光が終わってしまう」

2. 提言内容

自家用車ではなく公共交通機関を活用した観光の場合、自家用車と比較すると費用が高くなってしまうことを指摘する声がありました。一方、公共交通機関で来られる方は宿泊率が高いことから、宿泊と交通費を組み合わせた宿泊パッケージを提言致します。現在は小湊鐵道において1日フリー乗車切符や往復割引乗車券はありますが、2日フリー乗車券もありません。そこで、いすみ鉄道とも連携した2日当該切符をつけた宿泊プランを用意するなどすれば、まさに旅館にこもってやることのない、歩ける範囲しか行けなかったということの解決策になると考えました。

1日フリー乗車券	五井ー養老溪谷 往復割引乗車券
小湊鐵道全線乗り降り自由	途中下車は出来ません
	
有効日数 乗車当日限り	有効日数 2日間
料金 大人：1,840円 子供：920円	料金 大人：1,840円 子供：920円
小湊鐵道全線を1日たっぷりお楽しみいただけます。 五井から駅より先にお越しの方は、往復割引乗車券よりもお得になりますが、乗車当日限りの有効となります。	養老溪谷に行かれる方に大変お得な乗車券です。2日間有効ですので、養老溪谷温泉への1泊旅行にも最適です。 途中下車はできませんのでご注意ください。

【9 MaaS】

1. アンケートで出た意見

アンケートを取らせていただく中で多くの方より「電車を降りてからバスを待つ時間が長い」「バスの本数が少ない」というお声をいただきました。確かに、公共交通機関で養老溪谷にいらっしゃる際の利便性は決して高いとは言えません。しかし、これらの企業も営利企業であり、すぐに本数を増やして解決、というわけにはいかないのが実情です。

2. 提言内容

そこで我々が提案するのが MaaS です。Maas とは Mobility as a Service の略で、違う会社や違う交通機関を一括予約、支払いまで済ませるといったものです。例えば東京駅周辺に住んでいる方が東京駅から養老溪谷駅までの切符、さらには養老溪谷駅到着後待たずに乗れる時間でのバスやタクシーの代金まで先にスマートフォン等で支払えるというサービスの構築をできれば、お客様にとっても無駄がなく、またバスやタクシー会社にとっても必ずお客様の乗る車を走らせることができるという効率的な運用が可能になります。

この MaaS は地方の過疎地域などで高齢者の通院などで実験的に行われていることが多いのですが、養老溪谷のような首都圏にほど近い場所で行われている例はあまり多くありません。実証実験のフィールドとして養老溪谷を活用していくことなども一手なのではないかと考えます。



【10 ライダー特典】

1. アンケートで出た意見

バイクで訪れた方より、「ライダーに優しい街をしっかりと実現してほしい」との声をいただきました。確かにバイクを停めるためのスペースの整備など環境面での整備は進んだものの、顧客の誘致や本当にニーズをつかんだ施策はまだまだできていないというものです。



2. 提言内容

まずはライダーの方の求めるものをしっかりと調査することが重要だと考えます。我々もアンケートをとらせていただく中でライダーの方にしかわからない問題や視点に多く気づかされました。バイクに乗らない人にとって快適なまちづくりをしていくだけでは真の「ライダーに優しい街」にはなり得ません。どんな環境や設備が求められているのかを把握し、またお店でのライダー割など、できる範囲での優待や誘致活動などをしていくことで「ライダーの聖地」になることができるのでは、と考えます。

具体的にはバイクの荷台は小さいので、お土産を買って帰りたくても買って帰れないという声には、お土産を2000円以上購入された方には、送料を割引するとか、リュック型のお土産袋をつくるなど様々な工夫をすることが出来ます。

ライダースジャケットやバイクに貼るステッカーなどライダーが購入したくなるようなお土産について、ライダー割引や特典があると、さらに購買意欲がそそられると考えます。



山の駅「喜楽里」にて
ライダースイベント

【1 1 ドライブテクニック講座】

1. アンケートで出た意見

「バイクに乗ったことはないけれど、興味がある」という地元の方がいらっしゃいました。

せっかく養老溪谷にはバイクに乗っている方が集っていて、地元には興味がある・乗ってみたいという方がいらっしゃるのですから、これを活用しない手はありません。



また、騒音の問題や多くの人が集まることについては、地域住民の方も少し不安を覚えるという声もありましたので、地域との共生という意味でも、地元の方々が気軽に参加できるバイクのイベントも考えていく必要があるように感じました。

2. 提言内容

バイクに乗って養老溪谷にやってこられる方とバイクに興味を持つ地元の方とをつなげることができれば、相互理解や共生につながります。そこで我々は地元の方が自由に見に来られるライダー向けのドライブテクニック講座や交通規範などのマナー講座、反対にライダーの方が地元の方に乗り方のいろはを教える講座などを開くことを提案させていただきます。実際に養老溪谷に来られたライダーの方もこういったイベントがあればぜひやりたい！と、好意的な反応を見せてくださる方が多かったです。こうしたイベントを多く開いて地域の方に参加いただければ訪れる方と地元の方とで共に地域をつくっていくきっかけになるのではないのでしょうか。



また、普通乗用自動車の免許さえ有していても 50 cc オートバイに乗ったことがないという方も多いと思います。そういった方々にも、バイクに乗る機会をつくるきっかけになると考えています。

このように、地域(人、街)とライダーの接点を増やしていくことで単なる観光地としてだけではない養老溪谷の魅力が広がっていくと考えます。

【12 ライダー休憩スペース、エナジードリンク】

1. アンケートで出た意見

○「眠気覚まし用のドリンクが用意されたライダー向けの自動販売機が欲しい」

(レッドブル or モンスターエナジー)

○「雨よけ、日よけができる屋根付きイス&風よけ衝立が付いた休憩所、足湯スポットが欲しい」

2. 提言内容

ライダーの方のニーズでは、眠気覚まし用のドリンクが充実した自動販売機と、ブーツを脱がなくて土足のまま入室できる休憩スペースを求める声が多くありました。

現在も、山の駅「喜楽里」には屋根もついている屋外スペースや屋内スペースが少数用意されているものの、ライダーイベントやツーリングで訪れた方々のニーズに応えるだけのものではありません。

よって、提言の1つとして、これらをかなえるライダー専用の休憩スペースの設置を加えます。

①自動販売機の設置・モンスターエナジー（アサヒ飲料）・レッドブル（麒麟ビバレッジ）

②ブーツを脱がずに座れる休憩スペースの設置



(参考)

レコマルチブース

[ユキ技研]

通常単価（税別）

13万5616円～

【13 飛び出そう！旅館のおいしいランチ】

1. アンケートで出た意見

○「ブーツを脱がずにランチが食べたい！いつも通り過ぎている旅館のご飯が気になる！」

2. 提言内容

ライダーの方は、ブーツを脱がずに楽しめる観光スポットがあれば利用したいと答える方が多くありました。

ライダーの方のニーズに答える提案の2つ目として各旅館のおいしい料理をランチ限定で、出店形式で出店されることを提言致します。二輪車の駐車スペースを確保してお弁当形式で提供することで、コロナ禍でも感染リスクを抑えてサービスを提供ができます。



山の駅「喜楽里」の
屋外スペースにて
鮎の塩焼きを堪能



簡易テントであれば、
1 日で
作成・撤収が可能



滝見苑の地元産の食材をふんだんに使った料理

【14 ペットにやさしい観光】

1. アンケートで出た意見

ペットを連れて温泉街を歩いている2人組の方から

「ペット連れで観光したいので、愛犬と宿泊できる宿を知りたい」

「愛犬はペットではなく家族」

「養老溪谷のような大自然の中と一緒に散歩したい」

という声をいただきました。



2. 提言内容

アンケート調査の結果、ペットに関する回答は上記の回答以外はほとんどありませんでした。しかし、当該アンケートは養老溪谷にいらっしゃった方を対象にしており、いらっしゃらなかった方にはアンケートをとれていません。犬を連れて温泉街を歩いている方々は南房総へ観光に行った帰りに立ち寄ったという都内在住の婦人でした。愛犬を単なるペットではなく、家族として考える方々からすれば、旅行にも一緒に連れていきたいし、ペットと宿泊できる宿泊施設は重要となります。JTB や楽天トラベルなどにおいても、「ペットと泊まれる宿」というカテゴリをつくっています。

また、伊豆高原わんわんパラダイスホテルなどは愛犬と楽しめる宿としてその分野に特化しています。ホテル内は全館犬同伴可能で、レストランにも同伴できます。館内には、ドッグラン、犬用の温水プールや犬同伴可能な貸切風呂などもあります。

こうしたペット同伴専用の宿泊施設への舵切りはなかなか現実的ではないかもしれませんが、山の駅「喜楽里」へのドッグラン設置や、添加物なしのペットフードを販売する、犬と触れ合える犬カフェなど大自然を利用して動物たちと触れ合える場としていくことも大切ではないかと思いました。



ここでポイントとして考えているのは、犬カフェに置いておく犬は、すべて保健所などで処分が予定されている保護犬を用いることにすべきだと考えています。保健所や譲渡会などに行くことはハードルが高いですが、おしゃれなカフェに入ることには多くの人は抵抗がありません。保護犬カフェには、愛犬を連れて入れるようにしておくことで、愛犬との相性もマッチングできるようにしておきます。カフェ運営者が売上をあげるだけでなく、観光客には癒しを与えることが出来て、保護犬の里親探しもできてしまうという保護犬カフェを提案させていただきます。

【15 バリアフリーなやさしい観光】

1. アンケートで出た意見

栗又の滝展望台にいらした高齢者から

「足が悪いから滝に近付くことが出来ない」

身体障がいを抱えている方から

「バリアフリー観光を実現してほしい」という意見が出ました。



2. 提言内容

遊歩道に関しても段差が多く、栗又の滝へおりの道も非常に傾斜が急となっています。そこで、電動車いす WHILL（47 万 3000 円）や車いす補助具 JINRIKI（6 万 4800 円）、車椅子用階段昇降機マーレの導入を検討してバリアフリー観光への一歩を踏み出すべきだと考えています。

まずは、実際のところどれだけの坂や段差に対応できるか、どのようなニーズがあるかは分からないので、観光モニターなどを利用し安全面や必要性を確認する実証実験が必要だと思います。

車いす用階段昇降機

MaLe
マーレ

急傾斜、急カーブ、らせん階段など
様々な階段に設置できます。

屋内 屋外 直線 曲線



さらに、ボディシェアリングという考えについても導入してほしいと考えています。

視覚障がいのある方のため、足の悪い方がロボットを通じて目の代わりになる。足の悪い方のため、視覚に障がいのある方がロボット・VRを通じて映像を届けるというお互いの身体をシェアし合うボディシェアリングという考え方です。NIN-NIN という忍者ロボットが現在も開発中ですのでご参照ください。



【16 赤ちゃんにやさしい観光】

1. アンケートで出た意見

赤ちゃんを連れている家族の方から

「調乳できる場所がないので、長時間外出に向いてない。

授乳室もないので、周りから見られないように車の中でこそこそ授乳している。

おむつを替えられるようなスペースが欲しい。」

という意見がありました。



2. 提言内容

ミルクをあげるためには、80℃程度のお湯で粉ミルクを溶かして殺菌する必要があります。そして、そのミルクを冷やす作業を行うなどしなければなりませんから、煮沸消毒されたお湯が出る調乳室は赤ちゃん連れの家族にとっては必須なのです。調乳室があることが分かっているならば、お湯を入れたポットを持ち歩く必要もなくなりますし、必ず調乳室のある施設で滞在する時間は長くなります。



さらに母乳で育児をしている方への配慮のためにも調乳設備に隣接して授乳室をつくるとなると良いと思います。写真で示したように、おむつ替えのための台も設置することで、赤ちゃん連れの家族にとって非常に快適な観光を行うことが出来ると思いますし、当該施設を中心に旅行計画が練られることとなります。調乳室や授乳室、おむつ交換台のみですからそれほどコストも高くはありません。

これだけにとどまらず、産後ケアなどの取り組みを観光の枠組みで行えとなおよいのではないのでしょうか。産後で疲れているお母さんの身体を温泉で休めるとともに、骨盤調整やおっぱいケアなどを行い、赤ちゃん連れのご家族にもやさしい観光にするのです。温泉旅館や小学校廃校を利用して、沐浴指導、ベビーマッサージ、離乳食づくりなどを行うことも出来ると思います。赤ちゃんが生まれてしばらくは、慣れない子育てに疲れ、多くの親が、どうしても家の中にこもってしまうことが多いと思います。家族で少しでもゆったり過ごしたいというとき、養老溪谷が、赤ちゃんや、赤ちゃん連れの家族にやさしい観光を提供するのはいかがでしょうか。



【17 廃墟旅館×アート】

1. アンケートで出た意見

多くの方（特に初訪問の方）から、

「廃墟旅館の存在で、養老溪谷温泉街の雰囲気全体が暗くなる」

「市原側から来たが、養老溪谷温泉街の入口に

岩風呂と養老館という2つの大きな旅館の

廃墟があったので、びっくりしてしまった。

自分たちの泊まる場所は大丈夫かと少し不安になった」

という意見が出ました。



2. 提言内容

廃墟を解体するには数億円の費用負担をしなければなりません。しかし、その解体費用についても、所有者や自治体で負担することは困難です。鬼怒川温泉（栃木県日光市）でも1棟2億円の解体費用がかかるため、旅館廃墟群が出来てしまっています。東山温泉（福島県会津若松市）などは近隣の宿が解体費用を負担するという事例もありましたが、稀有な例です。

さらに、アンケート調査中に、爆破ロケで解体すればよいのではという意見も出ましたが、当該旅館の下には黒湯温泉の源泉パイプ等が埋設されており、他の温泉旅館への影響を考慮すると、それらを傷つけないように細心の注意を払わなければならず、爆破解体には適していません。



解体が難しいとしても、このまま放置すると、観光客へのイメージ悪化だけでなく、窃盗（旅館の備品持ち出し）や不法投棄など治安悪化にもつながってしまいます。

そこで、写真にあるようなタイ王国のフアヒン空港付近の廃墟のように、廃墟をアート作品として利活用すべきです。地元の方々や観光客でつくりあげるアートを養老溪谷温泉街の新たな看板とする方法を提案したいと思います。



【18 大多喜町でマンホールカード導入を】

1. アンケートで出た意見

山の駅「喜楽里」で行われたバイクイベントに参加された方から、
「スタンプラリーなど、マチを訪れるきっかけになるモノがあると嬉しい」
「そのマチの歴史や由来なんかも知ることが出来ると、ご当地モノとして欲
しくなる」という意見がありました。



2. 提言内容

大多喜町で、マンホールカードを導入し、養老溪谷観光センター（山の駅「喜楽里」）で配布するということを考
えました。

マンホールカードとは、各地方公共団体が企画元で
ある GKP と共同で制作し、訪れた方に「無償」で配
布することで楽しみながら下水道に興味を感じて頂く
事を狙った「カード型下水道広報ツール」です。また、
下水道関連施設やイベント等に足を運ぶ等一般市民
の主体的な行動の対価として配布するアイテムです。
2021 年 1 月現在においては、717 種類 557 自治
体で発行されており、日本全国にマンホールカードファ
ンが存在しています。裏面には、マンホールのデザインの由来や市町村の歴史などを記載しており、当該自治体の
PR にもつながります。



千葉市の
マンホールカード

購入価格は、1 ロット 2000 枚で 4 万円（税抜）と経済的コストも低いうえ、マンホールカードの登録手続き
も簡便なものです。（参照：<http://www.gk-p.jp/activity/mc/seisaku/>）



大多喜町の歴史を多くの人に知ってもらうとともに、多くの人
を養老溪谷に呼び込むことが出来ます。また、マンホールカード
記載のマンホールを探して、街歩きをする方々も多くいらつやい
ます。

また、マンホールカードを受け取りに来た観光客が山の駅「喜
楽里」でのお土産購入の契機となるともいえます。

【19 きれいなトイレを】

1. アンケートで出た意見

養老溪谷、特に観光で通る道や導線上にトイレがないというお声を多くいただきました。

そもそもの数も足りなく、また清掃も行き届いていないところが多いと我々も実際に訪れて感じました。



2. 提言内容

観光地では特にトイレの整備は不可欠です。そのトイレがなかったり汚かったりすると観光地全体の印象も悪くなってしまい、その周りもさらに汚されてしまうかもしれません。

もちろん、たくさんトイレがあるに越したことはありませんが、この整備には多くの予算を必要とします。そこで我々は清掃回数を増やすこと、また石鹸やハンドドライヤーを設置するなど少ない投資で満足度を上げる方策を提案させていただきます。

実際に我々が使っていたお手洗いも手洗い場に石鹸がなく、特に感染症に敏感になっている時勢としては不十分なように感じました。こうした点を一つずつ解決、改善していくことによって訪れる方からのマイナスの評価を少なくしていくことが必要であると考えます。

小湊鐵道の養老溪谷駅などは非常にトイレがきれいに整備しており、観光客の評判もよかったので、市原市側の養老溪谷温泉街に設置してあるお手洗いも早急に改善していただけるとより温泉街へのイメージも向上します。



養老溪谷駅トイレ写真

【20 フリーマーケット（柿売り実証実験）】

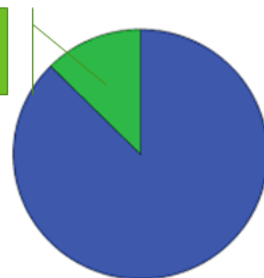
1. アンケートで出た意見

○アンケート結果によると、およそ40名が「もっと地元の野菜などを置いてほしい」と回答しています。

○現状、養老溪谷で野菜などの直売所はほぼ存在しません。ただし、山の駅「喜楽里」では土日のみ設置している。また、養老溪谷から少し離れた道の駅「たけゆらの里おおたき」では、現地野菜などを調達することは出来ます。

もっと地元の品が
欲しい。

40名



2. 実証実験、提言内容

観光客のニーズは明らかなことから、それに似合う供給が求められます。アンケートをとる中で感じたのが、養老溪谷の「地元」のモノに興味があるということである。山の駅「喜楽里」では千葉県産の商品は数多くあるものの、養老溪谷産あるいは大多喜町産の商品は数えるほどでした。鴨川方面からの帰りに立ち寄った観光客が「鴨川ではこんなにお土産を買ったのに、ここ（養老溪谷）は地元らしいモノがない」と何も買わずに去っていったのはとても印象深かったです。そこで、自治体経営研究会で次のような実証実験を行いました。



実証実験の様子

○11/3（水）の11:00～15:00で「養老溪谷土産地元産の柿」と銘打ち、喜楽里の空きスペースにて次郎柿などを販売。

○30セット・計100個以上の柿を売り上げ、売上は9,000円に達しました。

○その日のアンケートでは、隣で野菜の直売をしていたこともあり、地元のものが買えてよかったとの感想をいただきました。

実証実験は想像を上回る結果となり、改めて観光客のニーズと採算性を確かめることができた。以上より、喜楽里の空きスペースをフリーマーケットスペースとして開放することを提案します。地元の方が様々な商品を出品すれば、より魅力的なマーケットとなり観光客の満足度も上がるとともに、地元の方も収益を得ることができる理想的な関係性を築くことができるでしょう。課題としては今回の実証実験は祝日に行われたこともあり、平日の開催については人の入りを見て検討する必要があります。平日はバイク利用者の来訪が多いことから、たとえば手荷物にならないお土産があると喜ばれるかもしれません。



【観光調査報告会&意見交換会】

2020年11月5日（木）午後7時～午後9時 @旧老川小学校



報告会の様子

自治体経営研究会のメンバーが研究会集中期間の最終日の夜、養老溪谷の観光協会・旅館業者・地元住民・地元政治家の方々をお招きし、観光調査報告会を開催いたしました。

会場には良品計画の皆様が廃校をコワーキングスペースとして再活用している旧大多喜町立老川小学校をお借りしました。

入場口でアルコール消毒、体温計を使つての検温、マスク着用の徹底、参加者氏名・連絡先リストの作成など、感染症対策を十分に講じての実施をいたしました。

コメンテーターとして、日本国際観光学会会長であり、神奈川大学国際日本学部島川崇教授（松下政経塾第19期生）をお呼びしました。報告会当日に養老溪谷に入っただき、粟又の滝や山の駅、養老溪谷温泉（黒湯）を体験していただき、滝見苑の食事なども実際に体験していただきました。

20の提言についてのコメントをいただくのみならず、観光とはどうあるべきかについても熱く語っていただきました。観光において、観光客、観光に関わる業者だけでなく、地域住民や地元企業も喜ぶような仕組みを考えなければサステナブルではないことを改めて知ることが出来ました。

粟又の滝にて、島川先輩と



10/26~11/4の10日間、私達が行ったヒアリングや545名のアンケート調査の集計・分析を報告し「養老溪谷20の提言」の取りまとめを発表いたしました。GoToトラベルのキャンペーン中の繁忙期であり、かつ、直前の声かけだったにもかかわらず、ヒアリングやアンケート調査に協力してくださった旅館業者、大多喜町議会議員、地域おこし協力隊、地元企業、住民の方々など多くの皆様が参加してください、総勢31名という盛会になりました。



意見交換会の様子



報告後には地域の方々と活発な意見交換会を行い、これからの養老溪谷観光まちづくりのビジョンと方策を語り合うことができました。既に取り組んでいる内容や、地域の実情を改めてお聞きすることもできました。

自治体経営研究会メンバーを温かく受け入れてくださり、調査研究にご協力をいただいた、養老溪谷の皆様へ改めて感謝申し上げます。ありがとうございました！



大多喜町、市原市から養老溪谷温泉再興のために集まってくださった皆さん

【神奈川県国際日本学部の学生との交流会】

2020年11月6日（金）午前10時30分～午前12時 @オンライン

観光調査報告会の翌日、コメンテーターとして、神奈川県国際日本学部の島川崇教授の講義にゲストとして呼んでいただきました。

我々は、観光調査報告会の会場でもあった旧老川小学校のワーキングスペースをお借りして、島川教授の講義にオンライン参加しました。私たち自治体経営研究会メンバーが養老溪谷温泉の魅力や課題を学生の皆さんと共有して、若年層を養老溪谷温泉にアピールする方法をともに考えました。

特に、SNSの利用方法などは、政経塾生と10代の学生たちとでも考え方に大きな差異が出ており、大変参考になりました。たとえば、学生たちは、旅行の行先を決める上で、Google検索を用いるのではなく、インスタグラムのハッシュタグ検索を利用すると教えてもらいました。また、YouTubeやTikTokなどの動画を利用して旅行先を決めることもあるという話を聞かせていただき、魅力的な動画づくりも重要だと気付かされました。



【結び】

養老溪谷温泉は、令和元年の台風被害により、3つの遊歩道が閉鎖になり、紅葉がきれいな観光シーズンに大打撃を受けました。さらに、コロナ禍により、観光業全般が打撃を受け、養老溪谷温泉街も例外ではありませんでした。養老溪谷温泉でも経営者の高齢化や後継者不足が生じており、課題先進地域と感じました。

そういった状況において、わたしたち松下政経塾の自治体経営研究会メンバーは養老溪谷に関わり始めると、養老溪谷温泉や温泉街にかかわる人々の温かさにみるみる惹かれていきました。さらに滝巡り、温泉、ハイキング、ライダーイベント、ハロウィンイベントと様々な体験を重ねました。養老溪谷の魅力を知れば知るほど、より多くの人々に養老溪谷を知っていただきたい、再興してほしいと強く願うようになりました。



そして、こういった危機的状況を乗り越えるためには、我々のような「ヨソモノ」で、かつ「ワカモノ」が力を発揮するべきではないかと、研究会集中期間の全てを養老溪谷温泉街に入ることに決めました。まず、我々が出来ることとして考えたのが、松下政経塾生として「現地現場」を大切にすることでした。現地現場の方々の生の声を聞くためにヒアリングを重ねました。また、観光客の方々にはアンケート調査という形でニーズを聞くことが出来ました。



さらに、アンケートで一番多くの意見が出た地元のモノが欲しいという意見を参考に、「養老溪谷地元産の柿専門の松下商店」と銘打って、柿売りを体験させていただきました。

報告会・調査会も予想以上に多くの地元の方々に集まっていただき、盛会に終わることが出来ました。

自治体経営の要諦は、現地現場の人々の話をしっかりと聞くことから始まり、その聞いた話をしっかりと実践につなげることにあることに気付かされました。

最後にヒアリング、アンケートに協力してくださった皆様、報告会等に参加してくださった方々に改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

以上